

高崎で
あすなる忌

名曲喫茶しのびの まちづくり探る



来場者の前で意気込みを話す岡田店長

1982年に閉店し

た高崎市の名曲喫茶

「あすなる」をしのぶ

「第21回あすなる忌」

が1日、建屋を活用し

て現在は地元の高崎経

済大の学生が運営して

いる「cafe（カフ

エ）あすなる」で開か

れた。詩や音楽といっ

た芸術活動の拠点とし

てファンに親しまれて

きたあすなるの歴史を

振り返りつつ、トーク

ショーや詩の朗読会を

通して市民らがまちづ

くりについて考えた。

第1部では「あすな

ろと群馬音楽センター

高崎の宝を守るため

に」と題し、同大名誉

教授の大宮登さんと高

崎商科大特任教授の熊

倉浩靖さん、元上毛新

聞社論説委員長であす

なる忌実行委員の藤井

浩さんが鼎談した。大

宮さんは高崎の街中に

マンションが増えてい

る現状を好機と捉え

「新たな住民にこの街の良さをどれだけ伝えられるかが大切」、熊倉さんは「カフェあすなるを含む周辺施設とともに、音楽センターも市民のものとしてたくさん使うべきだ」などと、まちづくりへの思いを語り合った。

第2部は、元群馬交響楽団員でチェロ奏者の須田千香良さんと詩人で画家の関口将夫さん、高崎経済大の学生有志が出演する「チェロと詩の朗読」が行われ、店内に優しい音色が響いた。

学生店長を務める岡田美優さん（同大経済学部3年）は「音楽センターと同じように、市民の皆さまにたくさん使ってもらえるようなお店づくりをしたい」とさらなる発展へ意欲を見せた。（高橋和真）